

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-255211
(43)Date of publication of application : 16.10.1990

(51)Int.Cl. B21B 39/00
B21B 27/05
B65H 27/00

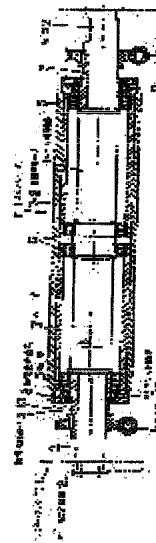
(21)Application number : 01-079158 (71)Applicant : SUMITOMO METAL IND LTD
(22)Date of filing : 29.03.1989 (72)Inventor : HIROOKA EIJI

(54) CROWN ROLL

(57)Abstract:

PURPOSE: To control the degree of curving of a sleeve and to prevent the meandering of a strip by constituting the crown roll in such a manner that the sleeve deviates from a straight arbor supported eccentrically and the degree of curving can be freely selected by angle adjusters.

CONSTITUTION: The surface of the sleeve 7 is a flat roll in the state in which the axial line of bearing supporting members 3 is aligned to the axial line of a barrel part 1 of the roll shaft. The sleeve 7 attains the curved state when the members 3 are rotated 180° by operating the angle adjusters 4 from this state. The degree of curving is adjusted by the operation of the angle adjusters 4 and the meandering of the strip is thereby prevented.



⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 平2-255211

⑫ Int. Cl. 5	識別記号	序内整理番号	⑬ 公開 平成2年(1990)10月16日
B 21 B 39/00 27/05	F	8414-4E 8617-4E	
B 65 H 27/00	Z	7716-3F	

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

⑭ 発明の名称 クラウンロール

⑮ 特 願 平1-79158
⑯ 出 願 平1(1989)3月29日

⑰ 発明者 広岡 栄司 大阪府大阪市此花区島屋5丁目1番109号 住友金属工業株式会社製鋼所内

⑱ 出願人 住友金属工業株式会社 大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号

⑲ 代理人 弁理士 押田 良久

明細書

1. 発明の名称

クラウンロール

2. 特許請求の範囲

- 1 真直なロール軸脚部の両側に、該ロール軸脚部に対しのみ偏心した軸部を設け、該軸部に角度調整装置を介して角度調整自在の偏心量のみの軸受支持部材を設け、ロール軸脚部中央から左右対称に配置した複数個の自動調心軸受のうち外側配置の軸受を上記軸受支持部材に嵌着し、上記軸受外輪に金属スリーブを嵌装したクラウンロール。
- 2 金属スリーブがゴムやウレタン等の弾性材料でライニングされていることを特徴とする請求項1記載のクラウンロール。
- 3 金属スリーブの両側端にスラスト受け機構とシール機構を設け、ロール軸に設けた油孔から軸受に給油する給油装置を設けたことを特徴とする請求項1記載のクラウンロール。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

この発明は、圧延機のクラウンロールに関する。

詳しくは、スリッターラインの巻取機等のピンチロール、薄板やフィルムのしわ発生を防止するエキスパンダーローラ、薄板送行ラインのハースロール、ルーパロール等として使用するに適した外周部の周囲にロール軸方向成分を有するクラウンロールに関する。

従来の技術

通常の真直なロールを有するクラウンロールの場合、例えばピンチロールとして用いると押圧力が軸方向で変化してしまう。またデフレクターロールとして用いた場合にはストリップの蛇行やフィルムのしわ発生が問題となり易い。

このような従来のクラウンロールの欠点を解消するものとして特開昭61-114722号公報が提案する湾曲軸クラウンロールがある。

これは、ロール軸(固定軸)を湾曲させ、これにペアリングおよびボビンを介してクラウンを有するゴムライニングを回転自在に取り付けたものである。

この湾曲軸クラウンロールは、外周の一部が軸方向に直線状となる。よってピンチローラとして用いれば、押圧力が均一化できる。また、このロールは、外周速度が中央部ほど速く、かつ外周速度が軸方向成分を有していることによりストリップの搬送ロールとして用いれば、蛇行を防止できる。さらに、デフレクターロールとして用いた場合、ロール軸を回転させ湾曲方向を調節して周速度を適切に利用すれば、ストリップの蛇行やフィルムのしわ発生が効果的に防止できる。

発明が解決しようとする課題

しかし、従来の湾曲軸クラウンロールには次のような問題点がある。

- ① ロール軸湾曲精度が悪い。特にロール軸は3次元的に曲がりやすい。従ってクラウン量にバラツキが生じる。また小さなクラウン量あるいは大きなクラウン量を有するロールの製作が難しい。
- ② 大型のロールではロール軸も太くなるが、このような大径の軸を正確に湾曲することは困難である。

の軸受支持部材を設け、ロール軸洞部中央から左右対象に配置した複数個の自動調心軸受を上記軸受支持部材に嵌着し、上記軸受外輪に金属スリーブを嵌装してなる。

また、上記金属スリーブは、その表面をゴムやウレタン等の弾性材料でライニングしたものを使用できる。

さらに、上記クラウンロールにおいて、金属スリーブの両側端にスラスト受け機構とシール機構を設け、ロール軸に設けた油孔から軸受に給油する給油装置を設け大荷重に適用しうるロールとすことができる。

作用

この発明のクラウンロールは、自動調心軸受の中心孔を合わせてから真直なロール軸を挿入してロールを組立て、そのあとで両側の軸受支持部材を回し金属スリーブの傾斜角度を調整する。したがって、ロール組立後にクラウン量を精度よく調整できる。

一方、ロール外周面の所定回転角方向のクラウ

ン量は、必要により固定ロール軸の回転角度により変化する。したがって、ピンチロールとして用いる場合、押圧力を容易に均一化できる。また、ストリップの抑えロールとして用いる場合、必要によりロール軸方向成分を自由に設定できる。

この発明は、上記従来の問題点を排除したクラウンロールを提供するものである。

課題を解決するための手段

上記目的を達成するため、この発明のクラウンロールは、真直なロール軸洞部の両側に、該ロール軸洞部に対しSだけ偏心した軸部を設け、該軸部に角度調整装置を介して角度調整自在の偏心量

を有する。したがって、ピンチロールとして用いる場合、押圧力を容易に均一化できる。また、ストリップの抑えロールとして用いる場合、必要によりロール軸方向成分を自由に設定できる。

ロール外周面の速度は、ロール幅方向中心ほど速度が大きいとともに軸方向成分を有する。第3図に示すように、ストリップ(14)が、この発明によるクラウンロール(13)に180°巻き付いて、線AA'～線BB'で接触しているとする。

この接触状態でクラウンロール(13)の接触部におけるロールの外周面速度ベクトルを展開して第4図に示す。各速度ベクトル図(a)～(d)の右の円内の矢印は、それぞれの位置における固定ロール軸に対する金属スリーブの傾斜方向を図示したものである。すなわち、矢印方向が上方に示す最大クラウン方向となるように固定軸の回転位置を設定した場合を示している。

例えば、デフレクターロールとして用いる場合に薄物のしわ発生を防止するには、ロール外周面

速度の軸方向成分がロール両端方向を向いた第7図(b)の状態で用いればよい。また、ロール外周面速度の軸方向成分がロール中心方向を向いた第4図(d)の状態で用いると特にストリップの蛇行防止に有効である。

上記のことく、この発明のクラウンロールは、軸受支持部材を回すことによって必要な速度ベクトル分布が容易に得られる。

実施例

この発明の実施例を図面に基いて説明する。

第1図は、この発明の実施によるクラウンロールの断面図である。真直なロール軸脚部(1)の両側端に、該ロール軸脚部(1)に対しあだけ偏心して軸部(2)(2)を突設する。そして、偏心量δの軸受支持部材(3)(3)を上記軸部(2)(2)に嵌合し、歯車装置からなる角度調整装置(4)により回動自在に設ける。また、ロール軸脚部(1)の中央部に軸受(6)(6)と上記軸受支持部材(3)(3)に軸受(5)(5)を設け、軸受(5)(5)の外輪間にスリープ(7)を嵌装する。このスリープ(7)は金属スリープ(7-2)にウレタンの弾性体スリープ

(7-1)を被嵌したものと示した。

また、スリープ(7)の両側端は軸受止め金具(8)を介してスラスト軸受(9)で受けられる。図中の(10)はスラスト軸受(9)を固定するねじリングである。なお、ロール軸はその軸部(2)をミルハウジング(11)にアーバ固定機構(12)により固定される。

真直なロール軸脚部(1)と偏心した軸部(2)(2)からなるアーバは固定されており、スリープ(7)はストリップの速度に合わせて回転する。

そして、第1図に示すように軸受支持部材(3)の軸線がロール軸脚部(1)の軸線に合致した状態では、スリープ(7)の表面はフラットロールとなる。この状態から角度調整装置(4)を作動して軸受支持部材(3)を180°回せばスリープ(7)は湾曲し第2図に示す状態となる。この湾曲度合は角度調整装置(4)の操作により調整され、これによりストリップの蛇行防止が行われる。

また、スラスト軸受を設けることにより、スリープに加わるスラスト力を受ける。したがって大きなスラスト力が発生する大型ロールにはスラス

ト軸受を設ける必要がある。

また、軸受(5)およびスラスト軸受(9)を含む軸受止め金具(8)、ねじリング(10)および軸受支持部材(3)と軸部(2)の間をシールするシール機構を設け、さらに図示しない回転締手を用いて軸部(2)の中心に設けた油路により軸受に給油するように構成すれば、軸受の寿命と共に耐荷重を増大できる。

発明の効果

この発明のクラウンロールは、真直で偏心して支持されたアーバに対しスリープは偏心し、かつ角度調整装置により湾曲度合が自由選択できるよう構成されるから、スリープの湾曲度を制御することによりストリップの蛇行が防止できる。

4. 図面の簡単な説明

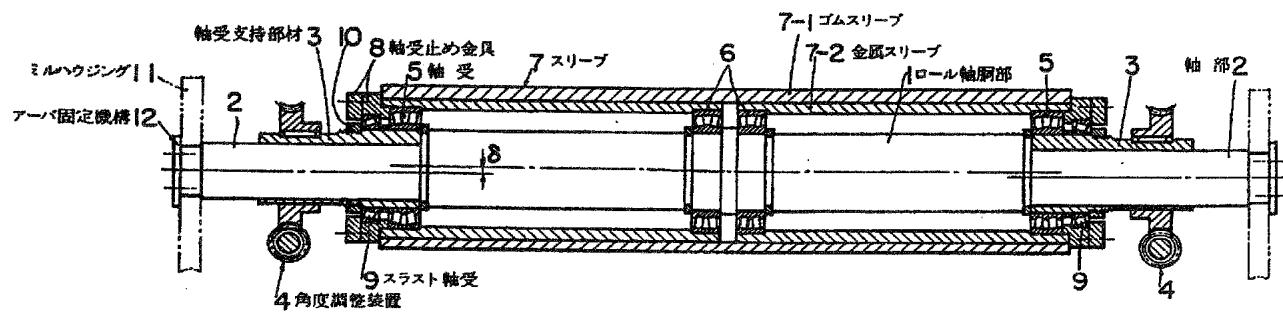
第1図はこの発明の実施によるクラウンロールの断面図、第2図は同上のスリープが湾曲した状態の断面図、第3図はクラウンロールへのストリップの巻き付き状態を示す説明図、第4図(a)～(d)は第3図の接触状態におけるロールの各位置における外周面速度ベクトルを展開して示した説

明図である。

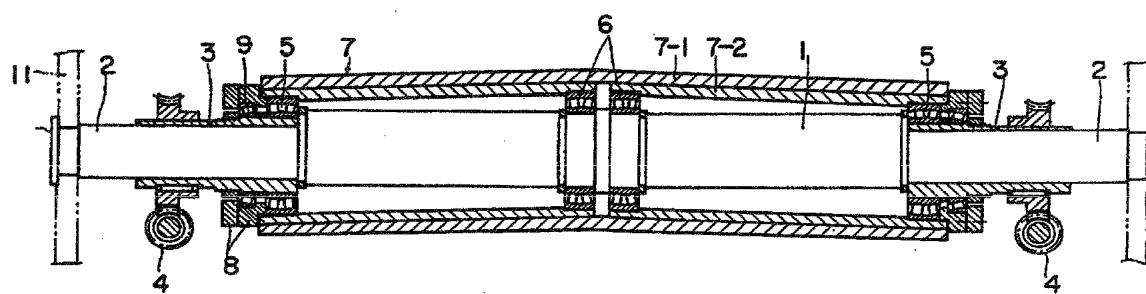
1…ロール軸脚部	2…軸部
3…軸受支持部材	4…角度調整装置
5, 6…軸受	
7…スリープ	
7-1…弾性体スリープ	
7-2…金属スリープ	
8…軸受止め金具	9…スラスト軸受
10…ねじリング	

出願人 住友金属工業株式会社
代理人 弁理士 押田良久

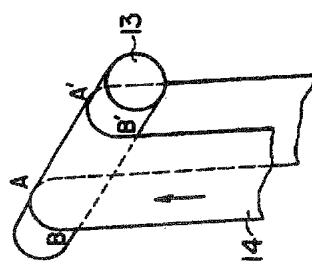
第1図



第2図



第3図



第4図

